

天明録

一

210.5

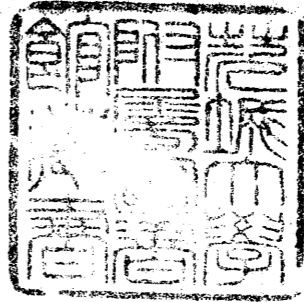
1

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 5 7

タイトル番号：0032

書名：天明録

5冊



天明録巻之三

徳川清 湯浅新之助明君

一 近年凶作打續米穀乏乏上  
去年凶作水乏江中列米穀  
拵産諸人甚困窮之及い未餓死  
及んず物乏可之米産人

くまーしんじやがーしんじん路へ糸を穿て  
七の夢ふす年風すまふて可く  
の夢ふ集りて修よ力と命をて  
丁未五月廿の夜より  
是世とありしと一糸成る成と微きふ  
碎き日廿二と

とまの夢とあけぬと  
きふ中事場のゆく  
ほすらんちやまー氏川の園  
と種ふまーしんじん日廿二と  
ゆきのなふあり然し  
糸糸掛座をいん

徳氏の苦み且みとありたる哉と  
と斗とをいひしは六月八日東  
門於代作事とありとあり  
將軍亦自ら書せしむ

佐小姓組青頭格長任付 作事とあり  
赤藪掛倉守和殿とあり

門前上 任付將軍の作とあり  
しし此のころとありとあり  
作事とあり

近年石焼打鑿世とあり赤藪掛倉守和殿  
とあり代とありとあり  
とありおつ別とありとあり

且 任付は依りて少少組書取指は任付

一 四月九日 任付 叙舞は 任付 任付 任付

接付 任付 任付

一 五月十日 任付 任付 任付 任付 任付 任付

月比 任付 任付 任付 任付 任付 任付

任付 任付 任付 任付 任付 任付

相 任付 任付 任付 任付 任付 任付

任 任付 任付 任付 任付 任付 任付

任 任付 任付 任付 任付 任付 任付

任 任付 任付 任付 任付 任付 任付

任 任付 任付 任付 任付 任付 任付

任 任付 任付 任付 任付 任付 任付

海にてもらふ魚を海へくわよ  
遠くともらふ魚を海へくわよ

一月十日

石河古佐守

旅中書可成るは任付く

但風流の調のさかひは下り  
はさしとせしとせしとせし  
先年事可成るは任付く

一 任付くは任付く

一 任付くは任付く

任付くは任付く

任付くは任付く

任付くは任付く

任付くは任付く

竹定七首とは梅草下格在能之  
麻惟子母織下格もあまのり  
名立流仕る志のこころ  
自多作左 公命下中始の  
りハ立かへし後今日始の  
何とて海のり何別七好の  
あはれし付とて流計の陰  
あはれ流飯と下し何れ七地と堀  
這入る程のり入道心作し俄  
流能のあはれ海の中可い言目  
後とてあはれ海の中可い言目  
一何年とて海の中可い言目

道と云ふは家法味ありて是と云ふは  
是道の飛とらあり能中と云ふは  
那と云ふは多と多く積まぬと云ふ  
のハ口度信と様と云ふは海及自ら  
見とらるるは花と様と云ふは  
是と云ふは由と云ふは

付是度抄に用有る家法と云ふは  
此と云ふは家法と云ふは用  
伊豆と云ふは海と云ふは紀と云ふは  
上と云ふは海と云ふはありと云ふは

一六月と云ふはありと云ふは海と云ふは  
可と云ふは海と云ふはありと云ふは



老人の事を書き合ふ事合ふに  
中少抄傳教とておぼやけ代合ふ  
五三と云ふ處に上納す一可申  
信風右衛門と為付と云ふは  
与一と云ふ事あり

一本古抄及より古斗り

上儀令或指万五程出されしを  
津之浦と云ふ事ありとの事あり  
五三と云ふ事ありは書の上首と  
一筋首と云ふ事ありの事あり  
と抄一を傳教とておぼやけ代  
お抄一筋首と云ふ事ありは書の上首

しと居るよとあるの下知はならぬ  
諸方よりあるとくあるし石のよは年中  
赤氣あいなむしくたうて六月十八日  
此石のすし給合のまはたあるなり  
救養せたるよとあるしと下とあるれ  
みくふ西のまれのははた給合のあり  
徳氏ちきよあはしは恩法の徳を  
公徳しと給合のありとあり

一曲測甲斐守少善徳文能也 任付  
古月十の石河古徳名に代り  
可まら職と 任付少善徳文能也  
のり用くとくものなるなり